

4年算数科学習指導案

指導者 山田小 北條 寛子

授業日：平成17年10月31日(月) 9:35～10:20

1. 単元名 共通部分に目をつけて

2. ねらい

- ・ 問題解決には、相違部分に着目するとよいことが分かり、順序立てて立式していく能力を伸ばす。
- ・ 見通しを立てるには図に表すと便利であることが分かり、適切な図を描く力を伸ばす。

3. 本時の実際

時 間	学習活動と児童の動き	教師の支援及び評価	センターの先生の支援	備考
10 (3)	1. 問題を読み、場面を想定する。		○ 絵を入れて、問題場면을提示する。	
(5)	2. この問題が、なぜ難しいのか話し合う。	○ 文章のみの問題用紙を配る。		
(2)	3. 本時のめあてを確かめる。	○ 《鍵1》として「単価×個数＝代金」の既習事項を引き出す。		
	答えを出す鍵が分かり、考えを式に表そう	○ 《鍵2》として「図が分かりやすい」をつぶやきから導く。		
	4. 見通しを確かめる。	《鍵3》として「違い」を挙げさせて《鍵1》への糸口にする。		
	《 図を描く 相違点を挙げる 》	○ その後の手順については、見通しでは触れないでおく。		
15	5. 問題を自力で解く。		○ 5分ほどしてから、ヒントがほしい子にヒントコーナーから支援する。	・ ついたてセット
			・ ドーナツ1個の値段が分かっても、ケーキを導けない子もいると思う	
15 (5)	6. 解き方を、まとめる。			
(10)	・ 1～2人の児童が発表する。			
	・ 友達の考えと比較しながら、センターの先生の説明を聞く。	-	○ 下位の子どもに標準を当てて、相違点からまず1つを、次の1つを導く過程までを、映像等で説明をする。	・ ついたてを取る
5	7. 練習問題を解く。	図から相違部分を抜き出し、既習事項に戻し、順序立てて考えたことを式に表し、解いているか。		
	(・未解決の子は、式を順序にシートに写す)			
	8. 振り返りながら、家庭学習の練習問題の解き方をイメージする。	○ 図に表し、式も書くように話す。 子どもによっては、すでに図を描いた練習問題にする。		